

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01851

研究課題名(和文) 批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティブ

研究課題名(英文) A Dialectic of Area Studies Toward Critical Regionalism

研究代表者

小川 英文(ogawa, hidefumi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20214025

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研プロジェクトでは、東西冷戦構造の終結以後、一気に進んだグローバリゼーションのもと、国際関係、国民国家、地域の伝統、国史といった従来の学的枠組みに依拠しえなくなった諸地域研究をどう再考するのかという問題意識から地域研究者たちが集って企画され、個々の研究者が各自の研究を進めつつ、東アジア(2015年)、アフリカ(2016年)、中央アジア(2016年)、南アジア(2017年)、オセアニア(2018年)、東南アジア(2020年)、貫太平洋(2020年)の諸地域において、地域研究の視角を再設定して現況の地域研究を批判的に検証しつつ、今後の在り方を模索する国際シンポジウムの開催を通して行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバリゼーションの進展とともに諸地域で常態化しているかつてない形での社会的コンフリクトに対し、学的に対応するための輻輳的な研究論点を多角的に定めることで、国民国家を単位とした自足的な地域研究のアプローチを刷新しつつ、グローバリゼーションによって顕になっているローカリティ(地域性)とコンフリクト耐性を剔抉する批判的地域主義的な立ち位置からの学問的交流・対話を通して、旧来の学問的理解や既存の研究枠組みでは把握が困難になっている現況の各地域の諸事象の特性、内的構造、ダイナミズムを総合的に解析することができた。

研究成果の概要(英文)：This project was planned and carried out by a group of area scholars from various regions with the awareness of the problem of how to reconsider the area studies that have lost their dependence on traditional academic frameworks such as international relations, nation-states, regional traditions, and national histories under the rapid progress of globalization since the end of the Cold War. This project critically examined current area studies from a new perspective, through the international symposia focusing on the regions of East Asia (2015), Africa (2016), Central Asia (2016), South Asia (2017), Oceania (2018), Southeast Asia (2020), and the Pacific Rim (2020).

研究分野：地域研究

キーワード：地域研究 グローバリゼーション コンフリクト レジリエンス 批判理論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

グローバリゼーションは経済生活だけにとどまらず、諸地域の社会・文化に多大な影響をあたえ、歴史とともに重畳されてきた社会的文化的なローカリティ(地域の特有性)を剥脱し、諸地域に生きる人々の政治意識や歴史意識、精神性にまでわたる重層的かつ複合的な変化を引き起こしている。そのため、これまで地域研究が用いていた方法論やアプローチでは諸地域のローカリティの現在を分析・把握することが非常に困難になっている。グローバリゼーションの進展は、かつてない規模と速度の人流・物流・商流・情報流を生み出して諸地域の社会文化空間を暴力的に均質化しつつ、EUやASEANに代表されるようなブロック化という形の広域圏における排他的な結束を促進させて個々のローカリティをより高次のリージョナリティに統合する対抗的な圧力をつくりだした結果、諸地域には複雑で多様な社会的コンフリクトが生じて、もはや諸地域はこうしたコンフリクト抜きには特徴化できない事態にまで陥っている。

こうした諸地域の現状から、インドにおけるサバルタン・スタディーズの理論的支柱である哲学者のガトリア・スピヴァックは、批判的地域主義の必要性を提唱している。批判的地域主義とは、元々は、歴史家・理論家ケネス・フランプトンが、徹底的に均質化された近代社会でこそ、むき出しにされるほかないその場の地理的特性に応じた建造性が建築物には要請されるべきことを提唱した建築理論だが(Kenneth Frampton, "Towards a Critical Regionalism: Six Points for an Architecture of Resistance", in *The Anti-Aesthetic. Essays on Postmodern Culture*, edited by Hal Foster, Bay Press, 1983)、スピヴァックはこれを世界認識一般に敷衍し、人々がナショナルな単位を前提にしてしか「地域」を思考し得ない現状を批判しつつ、グローバル社会の現実に対応した新しい地域性の把握を主張した(Gayatri Chakravorty Spivak, Judith Butler, *Who sings the nation-state?: language, politics, belonging*, Seagull Books, 2007)。

さらに、現在の諸地域における社会的コンフリクトは、これまでのものと位相を異にして、超地域的に生じているという現実があり、こうした事態を分析し、その特性を明らかにすることが喫緊の課題となっているが、現況の地域研究はそうした変容と緩衝のダイナミズムを捉えるためのフレームワークを十分に構築できておらず、刻々と移り変わる地域の社会的様相を学問的に十分に捕捉できていない。諸地域のコンフリクト耐性を解析し、グローバルな社会に向けた地域研究の新しいヴィジョンとして開示することが求められている。

2. 研究の目的

諸地域ではこうしたグローバリゼーションと社会的コンフリクトに晒されているが、一方でそうした変化に飲み込まれないためのローカリティに依拠した緩衝力(コンフリクト耐性)を発動させてもいる。国民国家という自明の枠組みにもはや依拠しえない地域研究が「地域」を研究する意味はこうした緩衝力(コンフリクト耐性)を把握し、分析して、その構造特性を剔抉することにあると考えられる。

こうしたコンフリクト耐性に着目することによって、地域研究を現在の世界のグローバル化に対応する学問として刷新すべく取り組むことが本研究の目的である。特に、2012年度に東京外国語大学に新しく設置された、アフリカ、中央アジア、オセアニアの地域研究セクションの画期性を示すべく、これらの地域研究を軸に現況の諸地域の社会的コンフリクトを分析し、その成果を超地域的に発題する形で討議・検討を継続的に行って、経年的に成果を積み上げ、新たな地域研究のヴィジョンを見出そうとするものである。具体的には以下の「研究論点」に則して行うことで、諸地域のコンフリクト耐性の固有性を剔抉しつつ、諸地域の共通性の検討を行うものである。

3. 研究の方法

東京外国語大学に所属する地域研究者たちが、中央アジア、アフリカ・サブサハラ、南アジア、中央アジア、東アジア、先進国という六つの地域を設定しつつ、コンフリクトの諸相を読解し、各地域のコンフリクト耐性を析出するためのパラメーターとして、身体性や文化状況において作動する政治性(ジェンダー・セクシュアリティ)、貧困と階級と労働そのものの変容(階級と労働)、エスニシティとレイス(レイシズム)などを立て、視点の多元性を前提にしながら、地域性の軸と地域研究方法論の二つの研究軸にそって共同作業に取り組むものである。その具体的な地域研究方法論の観点は、以下のようなものである。

【貧困のボーダーレス化】

かつてない経済格差の拡大に伴う新たな貧困層(アンダークラス)が増大し、従来の階級問題に組み込まれないような階層を諸国に生み出してトランスナショナルな社会的軋轢を生み出していることへの着目。

【国家の下位集団による社会的承認の創発化】

ヨーロッパ、北米、オーストラリアといった先進諸国では、非ヨーロッパからの移民が急増して、多文化主義が民主主義体制におけるシチズンシップの中心的課題となり、旧来のナショナル・アイデンティティと衝突する事態が頻発し、他方では各地の先住民が第二次世界大戦後にアジア・アフリカで起きた民族自立とは異なる、分離主義的ではない補償、帰属、集団保護をホスト国家に要求して、ホスト国家は周辺化されてきた「他者」の承認要求の高まりに窮していることへの着目。

【国際政治のローカリゼーション】

東欧、中東、アフリカ、中央アジア、東南アジアでは、ポスト冷戦以後の社会再建に国際資本が介入することで、国内の民族対立や宗教対立が国際政治に大きな影響を及ぼすようになっていることへの着目。

【トランスボーダーな宗教復興の拡大】

イスラームの一部は、近代化が人々に要請してきた世俗主義とは対立する形で宗教的アイデンティティを強め、超国家的な政治勢力になっている。東欧、中東、アフリカ、中央アジア、東南アジアでは、ポスト冷戦以後の社会再建に国際資本が介入することで、国内の民族対立や宗教対立が国際政治に大きな影響を及ぼすようになっていることへの着目。

【歴史と責任の認識をめぐる抗争】

東欧や東アジアに代表されるような、冷戦集結後に問い直されることになった歴史認識、戦後補償、領土問題が、覇権争いを伴って、かつてない厳しい対立が生じていることへの着目。

以上のような「研究論点」に則して、六つの地域でその地域性を検証することで、諸地域のコンフリクト耐性の固有性を剔抉しつつ、諸地域の共通性を考察することを目的とする。

4. 研究成果

■2015年度

研究計画で示した「歴史と責任の認識をめぐる抗争」という研究論点のもと、戦前には東アジア地域で覇権を握っていた大日本帝国と戦後には覇権を奪取するアメリカ合衆国の政治力学によって大きな地政学的規定を受けてきた東アジア地域に注力して、2015年5月に国際ワークショップ(「琉球・朝鮮・島嶼」へと、植民地併合の歴史を問う)、2015年12月に国際シンポジウム(「東アジアで考える戦争民主主義と戦後日本」)、2016年3月に国内シンポジウム(「世界史のなかの台湾植民地支配」)を開催し、東アジアにおける批判的地域主義を構築するため、帝国史を

地域からの視点によって多焦点的な世界の歴史(地域史の輻輳)へと読みかえ、近代における地域と国家の主権の問題について継続的に検証した。

また、本科研の次年度以降の展開のために、「国家の下位集団による社会的承認の創発化」という研究論点のもとでオセアニアでは先住民問題、米国では人種対立、沖縄では国家主権と地域主権の対立、「トランスボーダーな宗教復興の拡大」という研究論点のもとで中東の民主化をめぐる地域紛争、「国際政治のローカリゼーション」という研究論点のもとでヨーロッパと東南アジアでは地域史の国際化について、それぞれの地域で研究調査を行い、その調査結果を本科研の担当者が多く帰属し、研究の拠点となっている海外事情研究所で継続的にワークショップを開催して、意見交換を行った。

■2016年度

研究計画に従って前半と後半にそれぞれ国際シンポジウムを開催した。前半では研究計画で示した「国際政治のローカリゼーション」という研究論点のもと、ナイジェリアをケーススタディにして国際政治がどのようにして本科研の対象地域のひとつであるアフリカという地域で交差しているのかを議論して検証しつつ、これまでの地域研究のパースペクティブを再考する国際シンポジウム「アフリカの紛争を地域から考える」を開催した(2016年6月11日於東京外国語大学)。後半には「トランスボーダーな宗教復興の拡大」という研究論点のもと、本科研の対象地域である中央アジアに着目して、近代化が人々に要請してきた世俗主義とは対立する形で宗教的アイデンティティを強め、超国家的な政治勢力になっている中央アジアのイスラームの歴史性を検証すべく、国際シンポジウム「近現代中央アジアにおけるイスラームの展開」(2016年12月10日於東京外国語大学)を開催した。

また本科研では批判主義的地域研究を模索するための経年的な企画として「間帝国研究」に取り組んでいるが、昨年度末には大日本帝国の版図に注目して2日間に渡るワークショップ「近現代東アジアの人流統治を問い直す～帝国の力が重ね書きされた場所で～」(2017年3月4日が「指紋管理技術の帝国間連鎖とそのアクチュアリティ～」、3月5日が「強制送還」から問い直す主権と主体の歴史性)を開催した。

■2017年度

2つの国際シンポジウムと3つのワークショップを開催した。1つ目の国際シンポジウム「トランスボーダーな宗教復興の拡大」と「国際政治のローカリゼーション」という研究観点が交差する経済発展と社会変容が目覚ましいインド・ベンガル地域に焦点をあて、従来のフィールドワークや歴史研究が有効性を失っている、社会変容の激しい地域を対象にした今日的な地域研究がどのようにありうるかを議論した。2つ目の国際シンポジウムでは、近年目覚ましい発展を見せている帝国内外の人々の移動に着目した「人流研究」を、大日本帝国の版図における人の移動をケーススタディにし、種々の「越境者」の主体に刻印されたコロニアリティの重層性を剔抉し、現代世界になお影響を与え続けている帝国主義/植民地主義を批判するための新たな研究視座を検討した。

3つのワークショップの一つ目では、研究計画における「国際政治のローカリゼーション」の研究論点のもと、「群島」という現場 帝国・主権・グローバリゼーション 日本における島嶼研究の系譜から石原俊の小笠原群島研究を考える。」を開催した。また、2つ目は、この島嶼研究の沖縄での展開として、「在沖奄美の人びとの歴史 「非琉球人」管理体制の視点から」を開催した。3つ目は、オセアニアを対象地域にして、「国家の下位集団による社会的承認の創発化」という観点を加えて、国家暴力の被害者であったエスニック・マイノリティの権利回復がどのようであるべきかを検証した。

こうした2つの国際シンポジウムと3つのワークショップを通して、現代世界になお影響を与え続

けている帝国主義 / 植民地主義を批判するための新たな地域研究の射程について展望することができた。

■2018 年度

研究計画にのっとり、東アジア地域に注力して2つの国際ワークショップを開催した。一つ目は研究計画で示した「歴史と責任の認識をめぐる抗争」という研究論点のもと、「冷戦期東アジアと〈废墟学〉の射程」という国際ワークショップを開催し、戦後の東アジアの地政学がどのように諸地域の歴史認識やその後の戦争責任・植民地支配責任に及んでいるのかを、逆井聡人『〈焼跡〉の戦後空間論』（青弓社、2018年）という研究書を手掛かりに、沖縄、韓国、日本の研究者が歴史学、文学、社会学など学際的な観点からの戦後史研究から、国際政治がどのように東アジア地域で交差しているのかを議論して検証しつつ、これまでの東アジア地域研究のパースペクティブを間太平洋（トランスパシフィック）という研究フレームワークから批判的に再考する議論が生まれてきた。

また、本科研の研究論点のひとつである「国際政治のローカリゼーション」の観点から、日本における朝鮮半島研究を再考するための国際ワークショップ「コリア学の新天地」を開催した。このこの国際ワークショップには、岡まさはる記念長崎平和資料館、同志社コリア研究センターが参画し、これまで往々にして独立して研究されてきた植民地期の朝鮮人と日本における諸地域でのコミュニティ論的な在日朝鮮人研究を東アジア研究の観点から歴史のかつ地域研究的に総合することを試みた。また、これまでの日本史があくまでも日本という国民国家の歴史として記述されてきたことの問題を、複数の国家や民族が交流して形成されてきた地域史の観点から批判的に検討することの重要性を実証的に確認した。

■2019 年度

これまでの欧米中心な地域研究の枠組みを批判的に乗り越えるための「トランスパシフィック」という新しい研究観点を設定し、国際シンポジウム「日米帝国の総力戦・マイノリティ動員・レイシズムを相対する」を開催した。

シンポジウムで議論されたのは、日本と米国というその成立も発展過程もまるで異なる二つの帝国国家がアジアにおける覇権争いに鎬を削るなか、互いが互いの社会を人種差別的であると非難し合いながら、双方の国家が共振し、マイノリティに対する排除と包摂の様態に奇妙な相似化が起こり、しかも日本の敗戦後、東西冷戦下の日米関係は、戦後の米国における“モデル・マイノリティ”という日系アメリカ人の包摂の形態をそのまま反映する形になってしまったという事態の分析である。

本シンポジウムにおけるアジア太平洋戦争時における日米両帝国のマイノリティ動員の分析を通じて、これまで相対されることのなかった貫戦期における国際社会での立ち位置を意識した日米の総力戦体制が、実はいかに互恵的な関係にあり、相互の戦後政治をいかに規定したかを明らかにすることができた。このことによって、冷戦終結以後に露呈し、あらためて問われることになった20世紀という「過去」が、第二次世界大戦後の「アメリカの世紀」を招来した貫太平洋における日米の帝国戦争と、欧米では「終結」とされながら東アジアでは今なお続く冷戦とを抜きにしては対象化できないことを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 41-42
2. 論文標題 Anti-Nuclear Movement and 'Motherhood' in Post-War Japan: A Feminist Perspective	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 DEP: Deportate, esuli, profughe	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 李孝徳	4. 巻 52-6
2. 論文標題 「新世界」の怯えと異邦人（えいりあん）：バク・フンジョン監督『新しき世界』と韓国ノワール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 223-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池陽子	4. 巻 26
2. 論文標題 日本軍のサウンナケート進駐ーサウンナケートにおける仏印武力処理とその後を中心にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 118-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/95678	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菊池陽子	4. 巻 25
2. 論文標題 日本軍のラオス南部進駐ー仏印武力処理後のバクセを中心にー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 48-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/94092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菊池陽子	4. 巻 第24巻
2. 論文標題 日本軍のルアンパバーン進駐	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 100-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/92937	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芹生尚子・小田原琳	4. 巻 21
2. 論文標題 小特集「統治の実践と植民地」解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『クアドランテ』	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 822
2. 論文標題 書評：ロジャース・ブルーベイカー著『グローバル化する世界と「帰属の政治」』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田周平	4. 巻 Spring Vol.3
2. 論文標題 「グローバル化時代の地域研究 - アフリカ研究からの私感」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『Artes Mundi』	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田周平	4. 巻 920
2. 論文標題 「ナイジェリアの選択 - 大統領選と示されたメッセージ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 221-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 巻 1
2. 論文標題 近世京都の寺社と非人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シリーズ三都 京都巻	6. 最初と最後の頁 203-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内由理子	4. 巻 21
2. 論文標題 周縁性、語りとカテゴリー、そして搾取しない「学知」をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 クアドランテ[四分儀]: 地域、文化、位置のための総合雑誌	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山内由理子	4. 巻 21
2. 論文標題 イントロダクション: ポスト・ファクト時代におけるグローバル・リコンシリエーションの行方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 クアドランテ[四分儀]: 地域、文化、位置のための総合雑誌	6. 最初と最後の頁 103-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/93320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊池陽子	4. 巻 31
2. 論文標題 「ラオス史のなかの「日本」」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuriko Yamanouchi	4. 巻 33
2. 論文標題 “ My Grandparents Told Me a Lot about My Japanese Dad ” : Ethnic Identification of Japanese Descendants in Broome, Western Australia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 People and Culture in Oceania	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuriko Yamanouchi	4. 巻 24&25
2. 論文標題 Japanese ancestors, non-Japanese family, and community: Ethnic Identification of Japanese descendants in Broome, Western Australia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Coolabah	6. 最初と最後の頁 142-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 38
2. 論文標題 シルヴィア・フェデリーチ 労働を人間の手に取り戻す	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 POSSE	6. 最初と最後の頁 186-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 73巻5号
2. 論文標題 『キャラバンと魔女』の問い マルクス主義フェミニズムを再考する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川正彦	4. 巻 20
2. 論文標題 労働と政治の 現在 史にむけて - 模擬授業「喰う・寝る・遊ぶ の政治経済学」の再演とその振り返りをと おして -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quadrante	6. 最初と最後の頁 175-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田進	4. 巻 802
2. 論文標題 パレスチナにおける『ユダヤ人国家』の諸問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李孝徳	4. 巻 20
2. 論文標題 人種主義を日本において再考すること 差異、他者性、排除の現在	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quadrante	6. 最初と最後の頁 87-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/91618	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 巻 14
2. 論文標題 伊那谷の村と人形浄瑠璃	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所研究年報	6. 最初と最後の頁 149-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田 志津夫	4. 巻 92
2. 論文標題 V.V.バルトリド「タジク人：歴史的概説」(島田 志津夫(訳・解題))	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 305-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島田 志津夫	4. 巻 19
2. 論文標題 フェルガナ州(ロシア領中央アジア)の民族状況：1917年統計資料にもとづいて(島田 志津夫(訳・解題))	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quadranteクアドランテ	6. 最初と最後の頁 191-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 19
2. 論文標題 Violence against women and the racist discourse during the WWI in Italy	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quadrante	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 12
2. 論文標題 「平和の犯罪」としての戦時・植民地主義ジェンダー暴力 - - イタリア歴史学における研究動向 - -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 51
2. 論文標題 経験の後に書かれる歴史へ - - イタリア歴史学におけるレジスタンス神話と修正主義	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田進	4. 巻 802
2. 論文標題 パレスチナにおける「ユダヤ人国家」の諸問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松久男	4. 巻 647号
2. 論文標題 歴史の中の中央アジア ゼンギーアタからの眺望	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 6 - 15頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 25
2. 論文標題 書評 大内裕和・竹信三恵子著『全身 活時代』	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 女性史学年報	6. 最初と最後の頁 104-108頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 第82号
2. 論文標題 座談会 流れの再構築と逆装置のアポリア (共著者: 孔任順、権明娥、許允、金萬錫、小田原琳、宋連玉、柳忠熙他4名)	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『文化/科学』(韓国、文化科学社)	6. 最初と最後の頁 350-388頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田進	4. 巻 30
2. 論文標題 第二次世界大戦後中東を貫く米軍介入とアラブ民衆の苦悩	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 季論 2 1	6. 最初と最後の頁 194-206頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田進	4. 巻 840号
2. 論文標題 「中東紛争」の要因は何か	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 12-19頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計46件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 24件）

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 Food, Identity, and Local History: Food discourse among Japanese descendants in Western Australia
3. 学会等名 Tenth International Conference on Food Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊池陽子
2. 発表標題 東京外国語大学での東南アジア史教育の取り組み
3. 学会等名 東南アジア学会研究集会「高大接続改革の中の東南アジア史」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 A complicated relationship between the eugenics and the reproductive rights in Post-War Japan
3. 学会等名 Reproductive (Non) Freedom (Ca' Foscari University of Venice, Italy) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松久男
2. 発表標題 一つの文書から何を読み取るか：近現代史の史料について
3. 学会等名 日本中央アジア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 Motherhood and the Anti-nuclear Movement in Post-War Japan
3. 学会等名 Gender and Criticism: Japan in the Trans-Pacific (California State University, Northridge, the United States) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 <無垢>の死者を想起することの困難：フォッセ・アルデアティーネの虐殺と戦後イタリアのナショナル・アイデンティティ
3. 学会等名 東アジアのメモリー・レジーム：再現と遂行（西江大学、韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Forgotten women in the memory and history: from the cases during the WWI in Italy
3. 学会等名 「帝国とネーションを語る：中央ヨーロッパと日本における政治・宗教・文化比較」(Central European University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Un/learning her rights: the issue of reproduction in the 68 and after in Japan
3. 学会等名 Words and Violence: Global History of the 1968 Protests in Japan and its Contemporary Meaning (Leiden University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Anti-nuclear Movements and the Concept of 'Motherhood' in Post-War Japan: A Feminist Perspective
3. 学会等名 Donne Disarmanti / Disarming Women (University of Venice Ca'Foscari) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田周平
2. 発表標題 Who can defend the land right of peasant farmers in Africa?
3. 学会等名 4th SAJU(South Africa-Japan University) Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田周平
2. 発表標題 ナイジェリアの「牧畜民問題」とディアスポラ
3. 学会等名 東北地理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田周平
2. 発表標題 「ナイジェリアの2019年の総選挙 - 歴史から見えること - 」
3. 学会等名 アフリカ協会 第5回アフリカサロン (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 近代日本の江戸城外濠
3. 学会等名 Tokyo: Past and Present : Towards a "People's History" of the City (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 京都の非人
3. 学会等名 The First Early Modern Japanese Studies Workshop Early Modern Cities, University of Southern California (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Kikuchi
2. 発表標題 Japanese occupation as described in the official history of Laos and Laotian memories
3. 学会等名 SEASIA (Consortium For Southeast Asian Studies In Asia) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 移民であり先住民であり オーストラリア北西部の町ブルームと日本人移民
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuriko Yamanouchi
2. 発表標題 'Who told you about your Japanese ancestors?': Ethnic identification of Japanese descendants in Broome, Western Australia
3. 学会等名 The Australian Sociological Association (TASA) Conference 2017: Belonging in a Mobile World (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 食・記憶・エスニシティ 日本人移民とオーストラリア先住民の混淆の町で
3. 学会等名 第35回日本オセアニア学会研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Rights of Women vs. Rights of the Disabled People: Eugenics in Japan after 1968
3. 学会等名 第15回ヨーロッパ日本研究学会大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 生への権利と生殖への権利 現代日本におけるフェミニズムと優生思想
3. 学会等名 グローバルな記憶空間としての東アジア (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Comment on Carmen Belmonte, 'Fictive Realities: The Practice of Human Display in Italian National Exhibitions'
3. 学会等名 先住民をめぐる言説・表象・プラクティス (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin Odawara and Junko Kume
2. 発表標題 Feminismo o eugenesia? Debates en torno al aborto en el Japon de postguerra
3. 学会等名 III Congreso internacional en historia de las mujeres y estudios de genero (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田周平
2. 発表標題 ナイジェリアの南北間対立の新展開
3. 学会等名 日本アフリカ学会 第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李孝徳
2. 発表標題 脱北文学の固有性 亡命文学を参照軸にして
3. 学会等名 国際シンポジウム「脱北文学研究の新しい地平 難民文学、抵抗文学そして証言文学の観点から」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 日本近世における「家」の歴史意識 - 山里に遺された家伝記と遺言状を素材として -
3. 学会等名 日仏国際研究集会「都市・家・身分 - 日仏近世史の交差へ -」（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 日本の城と樹木 - 人びとの暮らしと城との関係に注目して -
3. 学会等名 世界史セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 飯田城と丘の上の景観 - 樹木と都市の暮らしに注目して -
3. 学会等名 飯田市歴史研究所地域史講座（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 地域の歴史を明らかにする
3. 学会等名 府中市史編さん 講座・パネル展示「史料でみる府中市の歴史 - 四谷と多摩川 -」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 醤油をめぐる生産・流通・消費
3. 学会等名 野田市史集中講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 'Public' ethnic categories, private storytellings, and 'being local': Japanese-Indigenous Australian mixed descendants in Broome, north-western Australia
3. 学会等名 2016 IUAES (The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 Being Japanese-Indigenous Australian mixed-descent in Broome: rethinking 'mixed'
3. 学会等名 InASA Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Comment on Lucy Riall, 'How Global was European Colonialism?'
3. 学会等名 ヨーロッパ史における中心・周縁再考 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 シルヴィア・フェデリーチ『キャリバンと魔女』を読む
3. 学会等名 ワークショップ「魔女とナウトピア - 脱資本主義のパラレルワールド」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 La divisione del lavoro di genere e la nuova strategia dei lavoratori stranieri in Giappone
3. 学会等名 City of Como and the University of Insubria, "Generi a colori: proposte formative per comunita`; multiculturali"
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池陽子
2. 発表標題 朝日新聞秘蔵写真の仏印関連写真
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会 パネル4 『朝日新聞秘蔵写真が語る「大東亜共栄圏」』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米谷匡史
2. 発表標題 日中戦争期・朝鮮知識人の「世界史の哲学」
3. 学会等名 国際研究集会「植民地知識人の「近代の超克」論」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Komatsu Hisao
2. 発表標題 Yeni Kaynaklar Isiginda Abdurresid Irahim Efendi ve Japonya
3. 学会等名 TOKYO CAMI VE KULLIYESININ KURULUSUNUN 80. YILI ANISINA IV. ULUSLARARASI ABDURRESIT IBRAHİM SEMPOZYUMU (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李孝徳
2. 発表標題 人種主義を日本において再考すること
3. 学会等名 植民地主義研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池陽子
2. 発表標題 日本の対ラオス関与 - 北部仏印進駐から第二次世界大戦終結まで -
3. 学会等名 International Conference “ Vietnam-Indochina-Japan Relations During the Second World War-Documents and Interpretation ” (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 語られるルーツと語られないルーツ 先住民コスモポリタニズムとシドニー南西部郊外のオーストラリア先住民
3. 学会等名 日本文化人類学会 第49回研究大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 'There are many of us' - オーストラリア北西部ブルームの日本人移民とオーストラリア先住民
3. 学会等名 オーストラリア学会2015年度研究大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山内由理子
2. 発表標題 Transnational and Local: Japanese Migrants, Indigenous Australians, and their descendants
3. 学会等名 IUAES Inter-Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Time of the " Realm of Mothers " : Mother-and-Child Discourse in Social Movements in Japan and Historical Time
3. 学会等名 the workshop ' The Work of Post-War '
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Violence against Women and the Racial Discourse in the WWI in Italy
3. 学会等名 the workshop ' Boundary Demarcation in the 19-20th Centuries in Alpine-Adriatic Borderlands '
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Violence against Women and the Racial Discourse in the WWI in Italy
3. 学会等名 the workshop 'The Violence of Memory, the Memory of Violence'
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米谷匡史
2. 発表標題 無名・集団の文学 工作者・谷川雁とサークル文化運動
3. 学会等名 日本近代文学会・6月例会 「共同制作と私的領域 戦後の同人誌・サークル活動から考える」(招待講演)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計40件

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 510
3. 書名 宮下本 熊谷家伝記	

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 1129
3. 書名 湊十分所史料集	

1. 著者名 菊池陽子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学海外事情研究所	5. 総ページ数 18
3. 書名 東アジア 歴史とその和解を考える (内海愛子講演記録)	

1. 著者名 山内由理子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 356
3. 書名 「西オーストラリアの町の日本食に萌えるー日本人移民の過去と現在」馬場淳ほか編『萌える人類学者』	

1. 著者名 佐々木孝弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 226
3. 書名 「エリザベス・ミード・イングラムの日記を読む」樋口映美編著『歴史のなかの人々ー出会い・喚起・共感』	

1. 著者名 小松久男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 315
3. 書名 近代中央ユーラシアの眺望	

1. 著者名 菊池陽子・白石昌也編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 早稲田大学リポジトリ	5. 総ページ数 401
3. 書名 "アジア太平洋戦争期の大陸部東南アジアに関する“朝日新聞”(東京本社)記事リスト一覧"	

1. 著者名 小松久男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 418 共編著 担当部分(4-16)
3. 書名 中央ユーラシア史研究入門	

1. 著者名 小松久男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 108
3. 書名 近代中央アジアの群像 革命の世代の軌跡	

1. 著者名 小松久男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 270 編著 担当部分(2-24)
3. 書名 1861年 改革と試練の時代	

1. 著者名 小松久男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 278 編著 担当部分(2 - 27)
3. 書名 1905年 革命のうねりと連帯の夢	

1. 著者名 島田周平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 274
3. 書名 『物語ナイジェリア史-「アフリカの巨人」の実像』	

1. 著者名 李孝徳ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 佐々木孝弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 960
3. 書名 アメリカ学会編『アメリカ文化事典』	

1. 著者名 山内由理子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 深山直子ほか編 『先住民から見る現代世界 私たちのあたりまえを問う』	

1. 著者名 Yuriko Yamanouchi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Ito Centre Editions	5. 総ページ数 500
3. 書名 Duncan Williams (ed), Hapa Japan Vol. 1: History	

1. 著者名 Hisao Komatsu	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 147
3. 書名 Timur Dadabaev and Hisao Komatsu eds., Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era	

1. 著者名 Hisao Komatsu	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Brill Academic Pub	5. 総ページ数 374
3. 書名 Selcuk Esenbel ed., Japan on the Silk Road: Encounters and Perspectives of Politics and Culture in Eurasia	

1. 著者名 小松久男（監訳）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 508
3. 書名 カーター・V・フィンドリー著『テュルクの歴史』	

1. 著者名 小田原琳（共訳）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 703
3. 書名 ヘイドン・ホワイト著『メタヒストリー』	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 366
3. 書名 高橋進・村上義和編著『イタリアの歴史を知るための50章』	

1. 著者名 島田周平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 藤真・関谷雄一編『社会人のための現代アフリカ講義』	

1. 著者名 島田周平・上田元（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 163
3. 書名 世界地誌シリーズ：アフリカ	

1. 著者名 小川英文（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京外国語大学	5. 総ページ数 50
3. 書名 『近現代中央アジアにおけるイスラームの展開』、小松久男先生記念シンポジウム記録、科研基盤(A)「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティブ」2016年度成果報告書	

1. 著者名 小川英文（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学	5. 総ページ数 68
3. 書名 『ベンガル地域研究の基本視座を求めて』、谷口晋吉先生記念シンポジウム「南アジアにおけるベンガルを問う」記録、科研基盤(A)「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティブ」2017年度成果報告書	

1. 著者名 鈴木伸隆ほか編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 408
3. 書名 フィリピンを知るための64章（小川英文：「人びとはどこから来たのか」pp.82-84）	

1. 著者名 島田周平（共著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学海外事情研究所	5. 総ページ数 54
3. 書名 グローバル化時代の地域研究 - ナイジェリアの地域紛争を事例に考える - （島田周平：「グローバル化時代の地域研究 - ナイジェリアの地域紛争を事例に考える - 」pp.3-21）	

1. 著者名 小長谷有紀・鈴木紀・旦匡子（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 304
3. 書名 ワールドシネマ・スタディーズ：世界の「いま」を映画から考えよう（島田志津夫：「トゥルー・ヌーン タジキスタンの国境問題と地雷問題：ソ連時代からの負の遺産」pp. 60-65）	

1. 著者名 小松久男（編著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 テュルクを知るための61章（島田志津夫：「テュルク語とペルシア語：二つの言語の蜜月」pp. 60-65）	

1. 著者名 東京歴史科学研究会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 323
3. 書名 歴史を学ぶ人々のために - - 現在をどう生きるか（小田原琳：「境界を創りだす力 - - 南イタリアから立てる近代への問い」pp. 203-221）	

1. 著者名 小田原琳・後藤あゆみ訳、シルヴィア・フェデリーチ著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 517
3. 書名 キャリバンと魔女	

1. 著者名 Masaya Shiraiishi, Nguyen Van Khanh & Bruce M. Lockhart eds.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Waseda University Institute of Asia-Pacific Studies	5. 総ページ数 333
3. 書名 Vietnam-Indochina-Japan Relations during the Second World War: Documents and Interpretations(KIKUCHI Yoko)	

1. 著者名 宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 影書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待（米谷匡史：「療養所の詩サークルと工作者たち 大谷浩之と谷川雁」pp. 211-216）	

1. 著者名 小松久男編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 テュルクを知る61章（小松久男：pp. 3-6, pp. 262-266）	

1. 著者名 長友淳編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 252
3. 書名 オーストラリアの日本人 過去そして現在 (山内由理子: 「日本人移民と先住民コスモポリタニズム オーストラリア北西部ブルームの日本人移民とオーストラリア先住民」 pp.104-117)	

1. 著者名 Duncan Williams ed	4. 発行年 2017年
2. 出版社 USC Ito Center/Kaya Press	5. 総ページ数 500
3. 書名 Hapa Japan: History Vol. 1 (山内由理子: 'I am "Mixed" and Identify with all the Cultures I Inherit Equally': Japanese Migrants and Indigenous Australians in Broome, Western Australia' pp.251-264)	

1. 著者名 長谷部美佳・受田宏之・青山亨編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 263頁 (李孝徳担当 41-53頁)
3. 書名 多文化社会読本 多様な世界、多様な日本	

1. 著者名 長谷部美佳、受田宏之、青山亨編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 263頁 (山内由理子担当 146-156頁 「多文化主義オーストラリアと先住 民族」)
3. 書名 多文化社会読本 多様な世界、多様な日本	

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 352
3. 書名 近世の家と女性	

1. 著者名 長谷部美佳・受田宏之・青山亨編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 263頁（佐々木孝弘担当 169-180頁）
3. 書名 多文化社会読本 多様な世界、多様な日本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティック http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/conflict/index.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩崎 稔 (IWASAKI MINORU) (10201948)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 孝弘 (SASAKI TAKAHIRO) (10225873)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	島田 志津夫 (SHIMADA SHIZUO) (20624117)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・講師 (12603)	
研究分担者	吉田 ゆり子 (YOSHIDA YURIKO) (50196888)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	山内 由理子 (YAMANOUCHI YURIKO) (50626348)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	菊池 陽子 (KIKUCHI YOKO) (60334447)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	小田原 琳 (ODAWARA RIN) (70466910)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	米谷 匡史 (YONETANI MASAFUMI) (80251312)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	大川 正彦 (OKAWA MASAHIKO) (80323731)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 孝徳 (LEE HYODUK) (90292721)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	小松 久男 (KOMATSU HISAO) (30138622)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・教授 (12603)	
研究分担者	島田 周平 (SHIMADA SHUHEI) (90170943)	名古屋外国語大学・世界共生学部・教授 (33925)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計10件

国際研究集会 冷戦期東アジアと 廃墟学 の射程：逆井聡人 『 焼跡 の戦後空間論』（青弓社、2018年）をめぐって	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 共同ワークショップ「コリア学の新天地」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 琉球人と近代西洋との最初の出会い バジル・ホール著『朝鮮・琉球航海記』（1818）を中心に	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 国際シンポジウム「南アジアにおけるベンガルを問う」	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 近現代東アジアの人流統治を問い直す～帝国の力が重ね書きされた場所で～	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 国際シンポジウム「帝国（間）を巡る人流：多様な帝國的主体の離散と集住」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際翻訳ワークショップ「Race for Empire と『総力戦とレイシズム』のインタートランスレーション」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 【戦後七〇周年企画 国際シンポジウム】東アジアで考える戦争民主主義と戦後日本	開催年 2015年～2015年
国際研究集会 日米帝国の総力戦・マイノリティ動員・レイシズムを相対する	開催年 2020年～2020年

国際研究集会 「カレー」をひもとくー帝国からグローカリゼーションへ	開催年 2020年～2020年
--------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	コーネル大学			
カナダ	トロント大学			
オーストラリア	西オーストラリア大学			
韓国	西江大学			